



別府市の別府翔青高は本年度、仲間づくりやコミュニケーション能力を高めるための活動「笑晴タイム」に取り組んでいます。

① 翔青高は県教委が導入したあるプログラムの実践モデル校です。プログラムの名称とその内容は？

.....

② 「笑晴タイム」ではどんな活動が行われていますか？

.....

③ この活動について生徒はどう感じていますか？

.....

④ 活動の効果について、担当の高橋教諭は何と話していますか？

.....

5分間 設定テーマ語って聞いて

別府 翔青高 しょうせい 笑晴タイム

設定されたテーマで語り合う生徒 | 別府市の別府翔青高



【別府】別府市の別府翔青高（793人）は本年度、仲間づくりやコミュニケーション能力を高めるための活動「笑晴タイム」に取り組んでいる。週1回終業時の5分間を使い、設定されたテーマについて語り合うなどし、自己開示や他者理解の経験を積んでいる。

「友達づくりに役立てて」

県内ではじめの認知件数や不登校出現率が増加する中、児童・生徒のコミュニケーション能力や人間関係力の低下が課題となっている。学校や学級への不応答を未然に防止するため、県教委は昨年度、一人人間関係づくりプログラムを導入。同校は本年度の実践モデル校（4高校）に指定され、6月から毎週金曜日に「笑晴タイム」を始めた。

19日の活動では「私のリフレッシュ方法」をテーマに、生徒がペアとなって話し合った。「みずく」相手の話を聞きながら、相手の話を意識しながら質問を返すなどしてコミュニケーションを図った。最後はクラスで話した内容を共有し、用紙に感想を書いた。

人間関係づくりプログラム
 自尊感情を高めるための構成的グループとの触れ合い
関わる力を育むソーシャルスキルトレーニングを集中的にグループで取り組む活動。来年度から県内全ての公立小中高校で実施する計画。

りに役立っている。相手の話をしっかり聞くことが授業でもできて「話すと話す。」
同校では進路指導や修学旅行の班分け、授業での話し合いにも活用する。担当する同校教育相談コーディネーターの高橋教諭は「最も大切なのは聞く姿勢。友達に受け入れられる経験によって、クラスに心の居場所ができ安心感につながった。新型コロナの影響でマスクをしているため、相手の表情が見えない今だからこそ、この活動を大切にしたい」と話している。（佐藤弘子）